

---

# 異世界in高校生

きよ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

異世界in高校生

### 【Nコード】

N2417P

### 【作者名】

きよ

### 【あらすじ】

高校生が異世界に行っちゃう物語

その世界は剣あり魔法あり魔物ありのありきたりな異世界。でも主人公は小さな頃から異世界があったら行ってみたいと思っていたからそれはそれでOK的な??そして主人公は何故この異世界に呼ばれたかを知ったとき本当の物語がはじまる。でも基本主人公はめんどくさがり屋です。

小説書くの はじめてなので誤字脱字は

気にせず大目に見てやってください。

主人公を軸に 恋愛・友情・絶望 色々な人の心がちゃんと書けて  
ある作品にしたいと思っています。

はじまり

助けて……

助けて……

私達の世界を……

救って……

私達の未来を……

ガバッ

ベッドの上で青年が勢いよく起きる

「ゆゝ夢？」

良かったとホッと小さく息を吐く

だが青年は自分の体の異変に気付く

「何で俺 汗びっしょりなんだ？」

少しの間 青年はベッドの上で手を組みながら考える……

「まあ いいや」

フツと青年は今さっき見た夢の事を思い出した

「助けて……かぁゝ 何だったんだろ？あの夢？……ん？」

青年は枕の上に置いてある目覚まし時計を見た

P M : 1 0 : 0 5

「うわーもう10時かぁー 学校遅刻じゃ……………」

「えっ 10時?!」

「遅刻だぁーっ！！！！！！」

「ぬぉー！！遅刻だぁーっ！！！！」

今 大声を出しながら走っている青年の名前は佐藤 和真 サトウ  
カズマ

青年の見た目は中の上少しだけ髪が茶色 頭の良さは普通そして運動神経も普通というTHE普通である

「疲れたー」

急いで走って学校に来た和馬は机の上で俯せになって疲れたを連呼する

「疲れた 疲れた 疲れた」

そんな和馬を見て1人のメガネを掛けた青年が近づいて来た

「和馬、また遅刻かよ」

と笑いながらメガネを掛けた青年が和馬に話し掛けた

「うるせえ！陸のくせに！」

和馬に話し掛けた来たメガネを掛けた青年の名前は

海道陸 カイドウ リク

高校に入って直ぐに仲良くなった友人である（自称：親友）  
そして、何よりも美形であり勉強、スポーツが何でも出来るパーフェクト人間なのである

「意味わかんねえよ！俺のくせにつて！」と陸と話していたら、今度は和馬の席に次は女性が近づいて来た

「和馬また遅刻したでしょ！」  
さっき、歩いてきた女性が和馬の席の真ん前に行き、手を腰に置き和馬を睨みながら言った

「うわ。凜じゃん」  
ボソッと小さな声で言う和馬  
だが、凜という女性はよっぽど耳が良いらしく和馬がボソツと言った言葉を聞き逃さなかった

「何？私じゃあ、いけないわけ？」  
腰に置いてあった手を机の上に置きながら凜と言う女性はさっきよりも強く睨み付けた

「ちっ！地獄耳め！」  
さっきよりも、もっと小さな声でまたボソツと言った

だが、凜と言う女性は本当に地獄耳らしく

「地獄耳で悪かったわね！この、バカ和馬ーッ！」

バシンッ

鬼の用な顔で和馬を叩いた凜と言う女性の名前は

野村凜 ノムラ リン

和馬とは家が隣同士で小さな頃から遊んでいて俗に言う幼馴染みである。

そして、小さな頃から和馬に恋をしていて、たまに和馬に積極的な行動をするが、鈍感なため、和馬は全く気付かないのである

「クリーンヒット…………… かよ。」

と言い残し和馬は気を失ってしまった

そう、此処で和馬は気絶さえしなければ、もっと今日見た夢の事を考えていれば……………

多分和馬の人生は普通に流れていたかもしれない……………

パチッ

和馬が目を開けると目に映ったのは、和馬が良く授業をサボりに来る場所の天井だった

そして、鼻にツンとくる匂いからして……………

「ここは、保健室か……………」

和馬はフツと思う、何で俺は保健室に居るんだ？

和馬は保健室のベッドの上で胡座をかき、腕を交差させて頭を傾

けながら うぐんと唸る

5分後

「思い出した！凜にビンタを食らって……………」パチッ

和馬が目を開けると目に映ったのは、和馬が良く授業をサボりに来る場所の天井だった

そして、鼻にツンとくる匂いからして…………

「ここは、保健室か……………」

和馬はフツと思う、何で俺は保健室に居るんだ？

和馬は保健室のベッドの上で胡座をかき、腕を交差させて頭を傾けながら うぐんと唸る

5分後

「思い出した！凜にビンタを食らって……………」

「いや、手加減しろよ！ビンタ食らっただけで気絶とか有り得ないだろ！」

と和馬のバカデカイ独り言は保健室に虚しく響いていた

スタスタ

今、和馬は保健室を出て自宅へ帰っている途中である

（凜は和馬が起きる30分前までは保健室に居たそうだが、保健の先生に「ここは先生に任せて帰りなさい」と言われ文句を言ったが何を言っても話を聞いてくれず、もう意味が無い事に気付き渋々帰つたらしい）

保健室を出る時に時計を見たら、PM:5:00を回っていた……だから、もう学校には部活をやっている人以外は誰も居なかった

（和馬は体を動かす事は好きだが、部活はめんどくさいらしく帰宅部）

チラッ

和馬は産まれてからずっとここに住んでいるが何故か見覚えのない古びた怪しい店が嫌に目についた

和馬は好奇心旺盛なため怪しい物を見ると兎に角気になってしまうのである

「入ってみようかな」

だが、この考えによって和馬の人生は大きく変わってしまうのだ……

……

ギィィ

和馬は何処からどう見ても古びた怪しい店に入った

古びた店の中は少し薄暗くて、何かの魔導書見たいな本やら古びたガラクタみたいな物が沢山あった

ピカッ

部屋の隅の方で和馬の目に光る何かが目映った

「何だろう?」

スッ

和馬が手に持った物は地味な飾りで手に収まる程度の丸い鏡だった

和馬は手に持った鏡を見つめ

「凜にこの鏡を上げて機嫌を直してもらおうかな?」

(たしか、この前凜の鏡を落として割っちゃったからちよつどいいかも)

と考え、鏡を買おうと決めた

「少年よ」

ビクッ

いきなり後ろから声が聞こえ和馬の肩が上がる

和馬は勢い良く振り返るとそこには70歳ぐらいの老人が立っていた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2417p/>

---

異世界in高校生

2010年12月13日22時05分発行